核燃料サイクルの実効性向上に向けた枠組み検討ワーキンググループ の設置について

令和7年9月9日

- 本年2月に閣議決定された「第7次エネルギー基本計画」及び「GX2040ビジョン」では、DXやGXの進展等を踏まえて、「脱炭素電源の最大限の活用」や、原子力発電については、「バックエンドプロセスの加速化」などの方針が明記された。
- こうした背景を踏まえ、脱炭素電源である原子力発電について、核燃料サイクルをはじめとするバックエンドへの対応を進めていくことが重要である。
- 特に第7次エネルギー基本計画では、核燃料サイクルの推進という国の基本的方針の下、六ヶ所再処理工場及びMOX燃料工場の竣工に向け、進捗管理や人材確保などについて、官民一体で責任を持って取り組むことに加え、
 - 同工場の安全性を確保した安定的な長期利用を行うため、中長期での取組が必要な項目について、官民で対応を進める。
 - 核燃料サイクルを実効的に回していくため、プルトニウムの利用や六ヶ所再処理工場への使用済燃料の搬入などに係る事業者間の連携・調整に国が関与し、その機能強化を図る枠組みを検討し、必要な対応を進める。との方針が示された。
- こうした核燃料サイクルの実効性向上に向けた具体的対応について、技術的・専門的な観点から御議論いただくため、第45回総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会における御議論を踏まえ、同小委員会の下に「核燃料サイクルの実効性向上に向けた枠組み検討ワーキンググループ」を設置する。

以上